

CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.24



新郷村と八戸市の交流連携事業進む



専攻科 自動車科 研修旅行
トヨタ工場見学・東京モーターショー見学



光星高校硬式野球部
第84回 選抜高校野球大会出場決定

Contents

■ 八戸大学

- ・新郷村と八戸市の交流連携事業進む
- ・青森県南・岩手県北県際交流連携セミナー開催
- ・大学・短大公開講座開催

■ 八戸短期大学

- ・平成23年度保育者養成懇談会開催
- ・看護学科卒業研究発表会

■ 光星学院高等学校専攻科

- ・自動車科研修旅行
トヨタ工場見学・東京モーターショー見学
- ・介護福祉科研修旅行 東京都内の福祉施設見学等

■ 光星学院高等学校

- ・北海道大学 5名合格 その他国公立大学も
- ・イルミネーション点灯式 クリスマスの集い
- ・硬式野球部 明治神宮大会優勝 選抜甲子園出場

■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・ロボコン全国大会出場
- ・女子空手部 全国選抜大会出場決定 団体形
- ・レスリング部女子1年生
清水目優生選手 国際大会出場



八戸大学・八戸短期大学
合同企業研究会

新郷村と八戸市の交流連携事業進む

総合研究所では青森県からの委託事業として、「地域力再生・創出資源調査分析事業」に取り組んでいる。人口減少や高齢化が進み、地域社会の活力が失われていくことが懸念されるなか、都市と農村との交流を一層促進することにより、地域を活性化していく取り組みが各地で行われている。こうした中、青森県では、「地域力の再生・創出推進事業」を重点施策として掲げ、平成22年度より、「地域間交流促進モデルの構築」を目指し、新郷村と八戸市をモデル地域として、地域の日常的な交流を通じた新郷村の活性化の取組みを展開している。

大学・短大の教員や学生が村をフィールドに、住民への健康・栄養指導や芸術教育、村内の未利用資源の活用や資源の洗い出しなど調査研究活動を行っているほか、村の観光地であるキリストの墓での婚活ツアーや学生による村を題材にしたテレビ番組の制作、新郷村の食材を使ったスイーツの開発と販売、村の食材を活用したコース料理の開発など、多岐にわたって交流活動が展開されている。

この事業は平成24年まで実施される予定。

＜新郷村と八戸市の地域間交流促進事業(平成23年度実施)＞

- ・小中学校（廃校を含む）の校歌等の調査及び楽譜・音源データの復元
- ・ハンドベル演奏体験による音感教育の実施（ママさんコーラスグループへの指導）
- ・新郷村の子どもの体力向上へと繋げるための保護者の意識調査
- ・新郷村における中高年の健康および体力状況の把握と生きがい・健康づくり施策への基礎資料の作成（村内在住の高齢者を対象に、機器を用いた測定（骨密度・血圧・体脂肪率・筋肉量・筋力）と食生活・心の健康に関する調査を行い八戸と比較する）
- ・村民への栄養指導と新郷村特産の牛乳を使ったミルクゼリーの開発
- ・新郷中学校の生徒による新郷村を題材にした絵本作り
- ・新郷村物産品購入にあたってのアンケート調査
- ・新郷村における一次産品を活用した製品開発手法に関する実践的研究（学生による新郷スイーツの作成）
- ・地域内外の交流事例の把握と新たな交流事例の提案（全戸配布のアンケート調査）
- ・一人一芸データベース化（村民の技芸をデータベース化）
- ・未利用資源などを活用したモニターツアー（2回）
- ・若者交流会（婚活ツアー「キリストの墓の前で愛を誓う」実施）
- ・新郷食材を活用したフェア（市内ホテル・レストラン）
- ・八戸ホコテン・八戸大学祭での特産品（農産品・お餅・加工食品）などの販売
- ・他地域からの移住交流（新規就農者・震災疎開者のお世話 栃木から1家族移住）
- ・首都圏レストランの動向ニーズ流通調査（食材を持ち込みシェフへの聞き取り調査）
- ・学生による新郷を舞台にしたCATVの番組制作と放映（八戸テレビ）
- ・八戸市内での新郷産の農産加工品の販売（みなとの駅、里山夢食堂）
- ・キリストの墓周辺の整備（キリストの墓周辺をパワースポット化、「愛の鍵」設置）
- ・村内イベントへのボランティア学生の派遣



震災復興へ経営支援

総合研究所では青森県からの委託事業として「震災を踏まえた新たなサービス業ビジネスモデル調査提案業務」を実施



している。この業務は、震災を理由とした解雇や廃業など、地域経済や雇用環境のさらなる悪化が懸念されているなか、震災を踏まえた当地域のサービス業等の新たなビジネスモデルの調査を行うとともに、困難な状況にある地域のサービス業等に対し、経営意欲向上の機会提供や起業・第二創業へ助言・支援等を行うことにより、地域サービス業等の再生を支援していくことを目的とするもので、具体的には、1) 経営者の意識調査、2) 地域内での異業種交流会の開催、3) 首

都圏の起業家との交流会開催、4) 地域のサービス業等のビジネスモデル転換や起業・第二創業に関するアドバイスを実施している。

それに伴い、12月16日から総合研究所内に「イノベーションに関する相談窓口」を開設し、相談活動を開始した。既に八戸市内を中心に十数件の相談が寄せられており、相談活動に当たっている。

相談時間は次の通り
毎週火曜～土曜 10:00～17:00

第17回就職合宿

平成23年11月12日(土)・13日(日)古牧温泉青森屋において、講師に株式会社マイナビ東北支社を招き第17回就職合宿が開催されました。

八戸大学の3年生、八戸短期大学ライフデザイン学科の1年生を対象としたこのイベントでは、まず「求められる人材について」をテーマに企業の人事担当者をパネラーとしたパネルディスカッションが行われました。

続いて、履歴書・エントリーシートの記入、模擬グループディスカッション、夕食後は1回目の模擬面接とハードなスケジュールをこなして初日は21時の終了でした。

2日目は2回目の模擬面接、さらに3回目の模擬面接と面接指導を中心に進められました。様々な質問が飛び交う中、真剣に、かつ積極的に取り組んだ学生たちは、12月1日からの就職活動スタートを切るに当たって、大きく成長したようです。



更なる連携を目指して

—青森県南・岩手県北県際交流連携セミナー開催—

平成23年度 青森県南・岩手県北 県際交流・連携セミナーを12月17日八戸パークホテルで開催した。青森県南・岩手県北の交流・連携を一層深め、地域経済の活性化を推進することを目的に本年度は「都市と農山漁村の交流・連携」をテーマに開催。基調講演は民俗研究家 結城登美雄氏が「小さな村には希望があるー地域から新しい活力と創造をー」と題し、3月11日の東日本大震災で感じた地域の力・絆の大切さ、バッテリー村での地域資源を生かした村活性化の取組み事

例、衰退していく農業を支える鳴子の米プロジェクトなどを紹介した。

事例報告では、当研究所客員研究員で株式会社 YANAI 総合研究所代表取締役 箭内 武氏が「新郷村と八戸市の交流連携事業に携わって」と題し、1年に渡り実施してきた地域間交流について報告した。箭内氏は「一人一人が能力を発揮し、全体の方向性を一緒にしつつ、自分が考えたことを自分で実施していく地域づくりが必要である」と話した。

パネルディスカッションでは、「都市

と農山漁村交流の推進と地域の活性化」をテーマに北緯40°ナニヤトヤラ連邦で活躍している6名のパネラーと、助言者として結城先生、コーディネーターは八戸短期大学 三浦 文恵 准教授が務め、各々の地域での活動や地域間の交流・連携について様々な意見交換を行った。

セミナーには青森県・岩手県の関係者や、各市町村において地域の活性化に携わる方、都市と農山漁村交流に興味のある方々約100名が参加。セミナー終了後の交流会では、ノースビレッジ農園のトマトジュースやミネストローネ、久慈のまめぶ汁、ひろの屋（本学OB経営）のガマズミジュース、南部町のリングジュース、新郷の焼酎「郷の華」等三圏域（八戸・久慈・二戸）の食材が並び、和やかな雰囲気の中交流を深めた。



大学・短大公開講座開催される

平成23年12月10日(土)八戸パークホテルで開催しました。この講座は、大学と短大が昨年までそれぞれ分かれて開催していたものを、今回一本化して開催するという企画でした。3月の東日本大震災等があり、人々のつながりやふるさとを大事にしたいという思いで「地域と共に歩むー青森・八戸の今」という大きなテーマを掲げました。大学2学部・短大3学科の計6名の先生方から、それぞれの専門分野に根差した下記の内容で講演していただきました。

毎年楽しみに参加して下さる方もいて、熱心にスライドや資料に目を通しながら聞き入っていました。

講座内容

1. 暮らしと景観づくり (八戸大学 ビジネス学部 戸村 春樹)
2. 青森の食と健康 (八戸大学 人間健康学部 井元 紀子)
3. 青森に所縁のある前衛芸術家寺山修司と岡本太郎を「時代と地域」から見直す (八戸短期大学 幼児教育学科 金子 晃之 飯田 竜太)
4. 安藤昌益の現代的意義を考える (八戸短期大学 ライフデザイン学科 大久保 等)
5. サクセスフル・エイジング (八戸短期大学 看護学科 蛭田 由美)



合同企業研究会

平成23年12月1日(木)八戸プラザホテルアーバンホールにおいて、県内外から45社の採用担当者の方々をお招きした合同企業研究会が開催されました。

この研究会には八戸大学の3年生、八戸短期大学ライフデザイン学科の1年生を中心に100余名の学生が参加。特に、11月の就職合宿で面接指導等を受けた学生たちの積極的な姿が企業側にも好印象で、「就職活動への取り組み姿勢がすばらしく、熱意が感じられました」、「ぜひ採用したい学生数名に説明することができ、有意義であった」とお言葉を頂きました。

面談を終えた学生たちは、「話を聞く前と後では印象が違った」、「興味のある企業が見つかった」など希望する業界や職種の糸口を見つけた様子で、同日解禁された就職活動を順調にスタートしました。

また逆に、「企業の選び方が分からない」、「専門用語が分からず困った」、「面接が不安」などの課題も見えてきました。面談を通して自分の課題を意識し始める事

ができたことで、就職活動を本格的にスタートさせるきっかけに繋がったようです。



「八戸大学」OB&OG訪問 part24



みちのく銀行 八戸営業部
藤ヶ森 祐子さん
(16回生)

プロフィール

光星学院高校卒、八戸大学16回生。
大学卒業後は、みちのく銀行へ就職。
現在、八戸営業部にて窓口業務にあたっている。

Q：学生時代の思い出を聞かせてください

A：学友会で活動し、秋桜祭をはじめ

様々な経験をさせてもらいました。人の中心となり、リーダーとして活動するのは向かないと思っていた私ですが、2年生のときに誘われ、会計担当として後方支援であればやれるかもしれないと思い参加しました。活動してみると、学友会のメンバーはもちろん、各部活・サークルの人たちと接する機会が増え、たくさんのお会いがありました。秋桜祭では、体育館前の広場をメイン会場に模擬店やイベントをやりました。今は新しい講義棟が建ったそうですね。当時とは雰囲気が変わったキャンパスを見に行きたいです。

Q：仕事をしていて気をつけていることはありますか？

A：職業柄、人と会ったときの第一印象は大事にしています。当たり前のことではありますが、実行するのは難しいです。

若い方からご年配の方もいますし、会社の方ともお話をします。全ての人と上手く接することは難しいのですが、「また来たいな」と思っていたけるように明るく仕事にあたっています。

先日、いつも来てくださる会社の方が、実は八大卒業生だったことを知り、つい話しこんでしまいました。たくさんの方と接することができ楽しく仕事をさせてもらっています。

Q：在学生へメッセージをどうぞ

A：学生生活は、とても楽しい時間ですよ！楽しい時間はあっという間なので、“時間”を大切にしてほしいと思います。そして学生でしか経験できない事を沢山してください。学生時代の沢山の経験は社会人になった時、きっと役に立ちます。夢をもった元気な社会人になるための準備期間として有意義に過ごしてくださいね。

WILLER TRAVEL株式会社 『とどけ、東北の声』に大学・短大生登場

募集型企画旅行の高速バス運行を中心に全国で事業を行っている WILLER TRAVEL 株式会社（本社大阪府）では、昨年3月11日の東日本大震災によって被災した東北地域からのメッセージを全国の利用者に届けるべく、「VOICE EXPRESS FROM TOHOKUーとどけ、東北の声ー」を行っている。この取り組みは、東北の人々の「生の声」を発信し、東北をより身近に感じることで東北への旅行・観光モチベーションを喚起することを狙いに行っているもので、八戸大からは篠崎ゼミの学生、八戸短大からは馬

場ゼミの学生が登場している。

篠崎ゼミ・馬場ゼミ生が画用紙に東北の復興に向けたメッセージや観光案内などを書き、東北への旅行を呼びかけている。今回の掲載にあたっては、篠崎ゼミ・馬場ゼミとも震災以降、長期にわたって被災者支援を行っていることから選ばれたものである。

写真は以下のホームページで見ることが出来る。

<http://travel.willer.co.jp/tohoku/voice.html>



館鼻漁港に「みなとの駅」OPEN!

接地に復活オープンした。

みなとの駅では、八戸大学OBや総合研究所の起業家養成講座修了生が経営する企業の商品、県の委託事業として取り組んでいる新郷村の農産加工品を中心に、八戸市や近隣町村の海産物や生鮮野菜・観光物産品の他、総菜や軽食の提供を行っている。

また、敷地内では週末限定で田楽やくじら汁、天ぷらなど屋台での販売も行う

ており、地域住民や漁業関係者などで賑わっている。

12月には八戸短期大学ライフデザイン学科学生による「八短キャンドルナイト」がみなとの駅で開催され、ろうそくの柔らかな光に包まれながら震災からの復興を願った。

みなとの駅の営業時間は午前7時から17時まで。毎週水曜が定休。



昨年3月11日の東日本大震災により被災した、国土交通省のみなとオアシス八戸「みなとの駅」（運営協議会会長：中村覚理事長、運営事務局：NPO法人海の八戸NPO）が10月1日、館鼻漁港隣

サッカー部

2年ぶり9度目の天皇杯出場

軟式野球部

全日本大学軟式野球選手権に初出場

サッカー部

八戸大学サッカー部は、昨年8月28日に行われた第64回NHK杯青森県サッカー選手権大会において、2年ぶり9度目の優勝を果たし、第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会に出場した。

初戦は、9月3日に札幌厚別公園競技場行われ、福島県代表の福島ユナイテッドFCと対戦し、後半69分川村隆之と74分浜村康平が得点を上げるも、2対6で惜敗した。

天皇杯出場にあたり、地域のみなさまや学院内の教職員・外郭団体から多数のご芳志を頂戴した。紙上を借りて御礼申しあげるとともに、今後の活躍を期待したい。



軟式野球部

八戸大学軟式野球部は、9月と10月に行われた奥羽地区予選を全戦全勝で勝ち抜き、昨年11月19日から熊本県において行われた、全日本大学軟式野球選手権に初出場した。

軟式野球部は現在20人の部員で大半が高校時代まで硬式野球の経験者。試合は、地元熊本県の熊本県立大学と対戦し、相手チームの流れで試合が進み、9回2死3塁からようやく1点を返したものの1対3で惜敗した。

会場へは父母の会の河村了会長をはじめ、遠路はるばる応援に駆けつけたご父母の方もあり、試合終了後は初出場の選手らに惜しめない拍手が送られた。

八戸観光大学講座開催される

11月3日から合計20講義・全7日間にわたり、あおもり観光人財育成事業「11八戸観光大学」が開講された。青森県からの委託事業で、今回は地域づくりに活用するための専門的知識を持ち、具体的な事業を実践していく観光地域づくりの核となる「企画・調整者」を育成することを目的に開講。観光事業の企画と評価方法や観光地経営のケーススタディを学



ぶことで、実践力を高めるべく多彩な講師陣を迎えて講座が行われた。

受講者は八戸市内の経営者、幹部者などを中心に12名。コミュニケーションアドバイザー 田原 美晴 氏によるコミュニケーションスキルの講義や長年にわたりディズニーの社員教育・研修プログラム開発を担当されたJ Sパートナー株式会社代表取締役 福島 文二郎 氏が「J S (働きがい) 創造からC S・E S 向上へ」と題して顧客満足度の考え方や顧客満足を生み出す人材育成法について講義を行った。八戸せんべい汁研究所事務局長 木村 聡 氏は「B級ご当地グルメで地域を売り込む」と題して、B-1グランプリ立ち上げや「地域」を売り込むことの重要性について講義を行った。

本講座では2日間の現場研修が行われ、岩手県久慈市「山根六郷水車まつり」の視察では山根六郷研究会初代会長 黒沼忠雄 氏による事業説明がなされ、十和田市奥入瀬溪流ホテルでは当研究所客員研究員で星野リゾート・トマム総支配人



佐藤 大介 氏によるホテル・旅館の再生事例についての講義が行われた。最終日には現場研修先である奥入瀬溪流ホテルにて受講者による成果発表がなされ、それぞれが考える地域の観光についての改善点とそれに対する自分なりの対処法についてプレゼンがなされた。成果発表会終了後は会場をNORTH VILLAGEに移し、講師陣と受講生らが情報交換を行った。

図書館公開講座「絵本の読み聞かせ講座」 青森県立図書館で開催！

八戸大学・八戸短期大学図書館では地域開放・地域貢献事業の一環として、平成19年度より独自の公開講座を開催しており、5回目の実施となる本年度は、「連携・協力に関する協定」を締結している青森県立図書館を会場に、平成23年12月3日(土)13:30~15:00に開催され、青森市内や下北地域から16名の参加者があった。

本図書館の小松良重司書による『絵本へのいざないー楽しい読み聞かせへの第一歩ー』と題した講演が行われ、前半では、「『絵本』とは、単に子どものための本ではなく、大人が子どものために心をこめて読んであげる本である。大人は自分自身が楽しみながらもっと子どものために繰り返し何度でも『絵本』を読んで

あげて欲しい。」と訴えかけていた。

後半は、持参した約60冊の絵本を紹介しながら、数冊を選んで実際に読み聞かせが行われ、会場は参加者の感嘆あり笑いありで、楽しく和やかな雰囲気であった。

講演終了後には、紹介した『触って楽しむ赤ちゃん絵本』を「是非孫へプレゼントしたいが、市内の書店でも売ってい

るか」との質問があったほか、六ヶ所村からの受講者の方から、「今度は六ヶ所村の図書館でも講演を開催して欲しい」との要望が出されていた。

今後は、年1回の定例開催だけでなく、要望があれば県内の各公立図書館に出向き、「絵本の読み聞かせ講座」を開催することについても検討していきたいとのことである。



第31回光星学院星の子音楽会に出演

平成23年11月15日(火)に八戸市公会堂において、第31回光星学院『星の子音楽会』が盛大に開催され、八戸短期大学の幼児保育学科約200名の学生が参加した。

この『星の子音楽会』は、八戸短期大学附属4幼稚園が、互いの音楽教育の向上と、園児同士・保護者同士の交流を願って合同音楽会を発足させてから、今年で31回目を迎える。

今年度は、幼児保育学科全学生による

合唱を披露した。学生たちは、この日のために附田勢津子教授を始めとする音楽科の先生方から、音楽指導の時間で指導を受け、発声練習やパート毎の練習を積み重ねてきた。

この日の会場には、多くの保護者が来場しており、園児たちの歌声に耳を傾けていた。音楽会の最後にスペシャルハーモニーとして、八戸短期大学附属幼稚園4園の教員と幼児保育学科全員による

「いつくしみと愛」「愛の賛歌」「小さなひとびとの」「ごらんよ空の鳥」「ハレルヤ」が披露され、スーツ姿に身を包んだ学生たちは、緊張しながらも精一杯歌っていた。



クリスマスコンサート開催

今年もゼミナール活動の発表として「クリスマスコンサート」を12月21日・図書館チャペルで開催した。本ゼミは吹奏楽経験者が管楽器の演奏を通して音楽の表現を考えることを目的としている。

しかし、経験の差から演奏技術の差が大きく活動の悩みとなっている。今年のゼミの目標は「“楽器を吹く”から“楽器で吹く”へ」とした。吹奏楽経験者は

合奏のために練習し指導者から要求されることを実現することを最大の使命としてきた。自ら考え表現することはほとんど要求されない音楽活動を続けてきた

わけである。幼児教育の指導者を目指す学生にとって不幸なことである。そこで、ゼミ課題を「ピアノ伴奏付きの独奏」として取り組んだ。



・ソロ演奏への取り組み（演奏プランの作成）

＜フレーズとフレーズの重心となる音を考える＞

1. 上行する音・下行する音の頂点の最低音
2. 旋律が終息する以外の長い音
3. 強拍部の位置にある音
4. 倚音

・演奏の技術的な課題への取り組み

・曲の全体構成

・ソロ演奏・発表（クリスマスコンサート）

- 【Ⅰ】 ソロ・コンサート（2年生による独奏）
- 【Ⅱ】 「ヘンゼルとグレーテル」（“語り”と“アンサンブル”）
- 【Ⅲ】 ウインドアンサンブル（ブルーリッジの伝説）



地域との緊密な連携を 平成23年度保育者養成懇談会

平成23年12月7日(木)、八戸プラザホテルにて、幼児保育学科主催の「平成23年度八戸短期大学保育者養成懇談会」を開催した。この保育者養成懇談会は、幼児保育学科が保育実習と施設実習でお世話になっている三八・上十三・むつ地区および岩手県北の実習施設関係者を対象に、本学が持つ知的財産の情報提供等を行い、養成校と実習施設の協同を図っている幼児保育学科のイベントである。

今年度の保育者養成懇談会では、「協働的な研修体制の成立に向けて～保育所・幼稚園・福祉施設における研修体系

の報告～」をテーマに選定。各施設において取り組まれている研修の実施状況や研修計画の設定方法、その他研修に対しての展望や意見等について報告していただき、保育者養成校である本学の果たすべき役割と今後の協働的な研修体系のあり方についてディスカッションする場とした。

外崎学長補佐の開会挨拶の後、養成セミナーを開催し、パネリストに明星保育園 浮木 真理氏、三沢市立中央保育所 園 芳彦氏、八戸文化幼稚園 南 京子氏、高館幼稚園 高松 あさ子氏、浩々学園 坂 亜

矢子氏、八戸市社会福祉事業団 榎本 陽氏を招き、コーディネーターを同学科上村裕樹准教授が務め、参加者は貴重な意見に耳を傾けていた。

保育や福祉の現場において、技能習得や質的向上のために様々な研修が実施されている昨今、そのような現状に対し、新任者研修やリカレント教育なども含め、本学が積極的に参与し、地域との緊密な連携に基づいた保育者養成教育を目指し努力していく。



看護学科

第1回卒業研究発表会

看護学科の卒業研究発表会が平成23年12月12日に開催された。卒業研究は、看護学の専門分野から各自がテーマを決定して2年次から取り組んできたものである。今年度は、第1回の発表会として、「統合」「基礎・精神」「高齢者」「在宅」「成人」「母性」「小児」の7つの専門分

野から14名が成果を発表した。研究は、質問紙調査、面接調査、実験、文献研究など、様々な手法を用いた興味深いものとなった。例えば、最近の大きな出来事を反映した研究として田口 俊一さん(3年生)は、地震災害被災後の高齢者の健康問題を予防するための対策を調査し、課題を検討して発表した。

発表会には1、2年生も参加し、熱心に聞き入っていました。「3年生の姿を見て、将来自分もあのようなになれるよう頑張らなくてはならないと思った。」「スライドの作成方法、発表の

仕方を今後の自分の学習に生かしたい。」などの感想が聞かれ、有意義な時間となった。

看護学科学科長 蛭田 由美



幼保ゼミナール研究成果発表会

平成23年12月21日(木)八戸大学会館において、幼児保育学科によるゼミナール研究発表会が開催された。このゼミナール

研究発表会は、ゼミナール担当教員の指導の下に行われた1年間のゼミナール活動の集大成として位置づけられており、

毎年開催している幼児保育学科のイベントである。

今年度は、12グループある各ゼミナールから、「手遊び・お遊戯」、「廃品を利用したの造形活動」、「保育教材としての伝統芸能一虎舞」など、各ゼミナールの特徴を生かした、多岐にわたるテーマで発表が行われた。次々と繰り出す、堂々としたプレゼンテーションからは、学生の大きな成長が感じられ、また元気いっぱいの躍動感あふれるパフォーマンスには、笑いを誘う場面もあり、会場から大きな拍手が送られた。



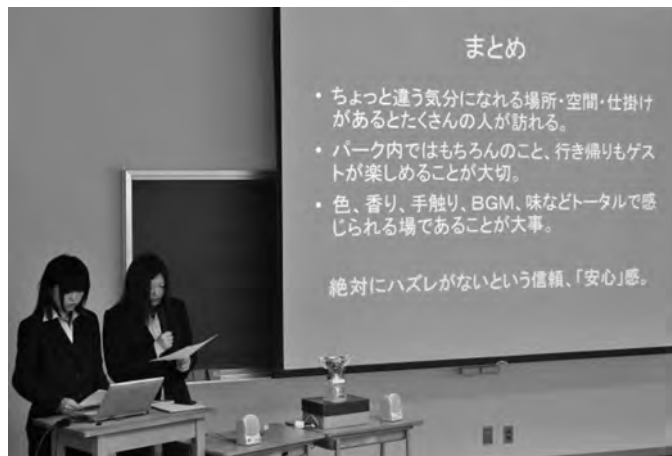
プレゼンテーション能力の向上を目指して

平成24年2月1日(木)八戸短期大学221講義室において、ライフデザイン学科のゼミナール発表会が開催された。このゼミナール発表会は、今年度における各ゼミナールにおいて活動の総まとめとして発表することにより、ゼミナールⅠ・Ⅱの達成目標を明確にし、ゼミナール活動

をより活性化するとともに、学生のプレゼンテーション能力の向上を目指すことを目的としている。

学生達は、各ゼミナールの活動を振り返り、工夫を凝らして資料作りをし、当日のゼミナール発表会に向けて準備を行ってきた。当日は、1年生が司会を担

当し、6グループのゼミナールから特徴を活かしたテーマで発表が行われた。最後に外崎学長補佐より総評をいただき、来年度へ向けての課題が明確になった。しかし、学生達の堂々とした発表には、大きな成長を感じられ、会場からも大きな拍手が送られていた。



充実した研修旅行

自動車科

12月5日から9日までの5日間、東京・愛知へ研修旅行に行ってきた。

5日夜、バスにて八戸を出発し、約14時間かけて翌朝愛知県に到着した。

2日目は最初の研修である豊田市のトヨタ元町工場に向かったが、豊田市内は気のせいかトヨタ車ばかり走っているように感じた。

工場では実際に、プレスから、溶接、組み立てと最新の生産技術を見学することが出来た。現場は、多くはロボットが作業していたが、人の手で組み立てられる部分も多いことに驚いた。

午後は鈴鹿サーキットへ向かった。サーキットへ入るなり、凄まじいエンジン音が聞こえてきた。コース上を自分の足で歩

くことも出来たし、また、F1の表彰式などで使われる表彰台に上がることも出来て、とても貴重な体験となった。

3日目、東京モーターショーへ向け愛知県から東京へ向かった。7時間かけ会場に到着し、早速各メーカーのブースを見て回った。コンセプトカーや、環境に配慮した車など様々あったが、なかでもトヨタのコンセプトカーが一番印象に残った。それは、ボディ全体がディスプレイになっており、走るスマートフォンと言われている物だった。

その他、スバルの衝突しない車の実演を見ることが出来たり、電気自動車やEV車等、最新の技術を見学することが出来た。

4日目は、日野オートプラザの見学だった。大型トラック、バス等をつくる日野自動車の歴史や、戦時中使われた飛行機のエンジンなどが展示してあり、これも貴重な体験となった。

午後からは、自主研修で都内へ出たが、慣れない電車を乗り換え、協力しながら目的地を目指した。また夜は東京ディズニーシーと充実した内容だった。

この5日間の旅行で、工場見学やモーターショーを通し、自動車に関する知識や関心が深まったのではないかと思った。また、学生生活の良い思い出となり、大変充実した研修旅行になった。

自動車科1年 安達 俊騎



介護福祉科

12月12日から3日間、東京都内へ有意義な研修旅行に行ってきた。

1日目は青梅市の盲老人ホーム「聖明園曙荘」を見学した。

視覚に障害のある65歳以上の方で、身の回りのことは自分でできる方が対象の施設であった。

障害があっても自立した生活が可能となるように、廊下の手すりに小さな人形などの「しるし」の設置や、誘導チャイムで位置確認ができるなど自立へ向けた

支援には様々な方法があり、工夫がなされていた。

また、関連施設における奨学金を利用し、たくさんの視覚障害の方が大学に進学したのちに弁護士・大学教授・公務員など社会で活躍されており、「人はとても弱い生き物だが、懸命の努力により強い生き物になることができる」との理事長のお言葉に勇気と深い感銘を受けた。その後東京湾に移動し、ディナークルージングで素敵な夜景と食事を堪能することができた。

2日目は3つの班に分かれ、有料老人ホームの見学である。

私たちは世田谷にある「アライブ中町」を見学し、主に自立されている富裕層の方々が対象ということで、食事はシェフや板前さんが作り、アクティビティ活動ではプロの指導者のもと余暇を楽しみ、整容はカリスマ美容師が行ってくれるという私たちにとって夢のようなサービスが提供されて

いて、驚きの連続であった。

「すべては最高のサービスのために」の理念から特に接遇が徹底され、笑顔でありさつとお辞儀をすることで利用者に対し尊厳の保持を形であらわすことになる」と学び、就職後は実践したいと思った。

また、ホーム長さんのお言葉で「職員側がニーズに限界を作ってしまうことが多いので、どんなニーズでも否定せず一旦受け入れて前向きに検討することが利用者への礼儀である」と教えていただき、個性にしっかりと向き合い、自己実現への努力とチャレンジをし続ける介護者でありたいと思うことができた。

午後からはディズニーランドで楽しみ、最終日の3日目は東京自主見学で個々の時間を満喫することができた。

介護福祉科2年 松田 早苗



就職活動に向けて

－キャリアプラン学習－

今回はスーツの着こなし方のセミナーだった。

紳士服の青山の三浦さんにスーツの着こなし方、就職活動での基本的なマナーなど数ヶ月後の自分達に必要なとても重要なお話をしていただいた。

スーツを着るようになってからまだ日が浅い私たちはスーツを着るというよりもスーツに着せられているという表現の方が正しいのかもしれない。

セミナーの中でまず自分に合っている

スーツを着ているか、袖の長さ、胸回りはきつくないか、スーツを着た状態で体との間に握り拳一つ分入るかなど細かい指導をいくつもして頂いた。

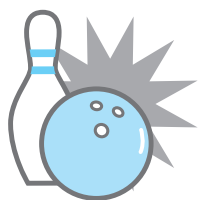
就職活動はまず初めに見た目（第一印象）で評価が付く場でもあるので三浦さんに教えて頂いた基本的なスーツの着こなし方を忘れず就職活動に生かしていこうと思った。

その他基本的なマナーとしては、スーツのボタンをしめる、名刺は名刺入れを

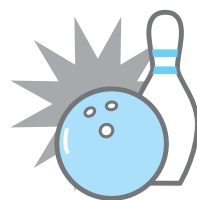
台にして受け取る、カバンは倒れない形の物を使うなど基本的なルールを教えて頂き、自分は名刺交換でのマナーすら知らなかったのがとてもためになった。

就職活動まで時間があるようで、実際は数ヶ月しかないという私たちにとってはとても貴重でためになるセミナーであり、用意しなくてはいけない物を早めに用意し、これからの就職試験に備え頑張っていきたいと思う。

自動車科1年 小泉 星也



ボウリング大会



12月22日(木)午前10時、専攻科全学生と教職員が八戸市内にある、ゆりの木ボウルに集合した。

4～5名ずつ各レーンに分かれ、ランダムに選ばれた3名の始球式の後、スタートの笛を合図に、平成23年度のボウリング大会がスタートした。

2ゲームのトータルスコアで争われる大会だが、投球フォームが綺麗で高得点を出す学生や、力任せで投げる者、初めてのボウリングでガーターを連続する者など、様々な学生がいて好プレーあり珍プレーありの見ていても楽しい大会であった。

ちなみに男子の優勝者は自動車科1年 須藤雄介 君（仙台育英高校出身 トータル283）、女子の優勝者は介護福祉科1年

原田利子さん（委託生 トータル268）という結果だった。

駐車場の利用時間の関係で、表彰は冬期休業明けに学校にて行った。



北海道大学 5名合格！ その他国公立大学も！

今年度は12月現在で9名の国公立大学の合格者がすでに出ております。特に北海道大学には3年連続でしかも5名(一昨年2名、昨年2名)、山形大学には3年連続、青森公立大学には毎年の合格者を出しました。特に北海道大学に関しては、新聞等で記載されたように進学校の生徒達が不合格になる中、合格者20名の内5名が本校であることは、上記の大学等が本校を評価しており、すでに本校が進学校であることを意味していると思われます。これは、大学に提出する論文や研究発表(高総文祭の自然科学部門で優秀賞を受賞し、今年8月に富山県で行われる全国大会に県代表として出場決定)等の指導、および有名難関大学合格を早期から計画し、一人一人の生徒の「夢と可能性」を創造すると共に、夢を単に夢で終わらせない日々着実な指導が実践されている成果だと思われます。また、今回は、特進コースだけでなく進学コースからも合格者が出ており、国公立大学合格の裾野が広がっています。3月にはセンター入試を利用した合格者が出ると思われますので、昨年度以上の結果が出ることを期待しております。来年度も引き

続き多くの有名難関大学に合格できるように、生徒及び先生方が「日々是決戦」

を合言葉に毎日一生懸命頑張っています。以下に合格者を記載します。

北海道大学 磯島 真人(湊中卒) 岩本 雅貴(白山台中卒) 佐藤 鉄馬(田名部中卒)
向井 和樹(八戸第三中卒) 大澤麻衣子(倉石中卒)
弘前大学 佐々木恭子(八戸第一中卒)、**山形大学** 見附 愛里(八戸第三中卒)、
福島大学 三浦紗知慧(八戸第三中卒)、**青森公立大学** 伊藤 瑠真(三沢第一中卒)



母親研修会

ガーデニング ▶ クリスマスバージョン



今年度第3回目の母親研修会は、昨年人気を博した「ガーデニング」です。12月3日(土)正面のエントランスで、パセリー菜の園芸部長、出町勉氏を講師にお迎えして、素敵な寄せ植えを行いました。参加者は22名、2時間ほどでクリスマスらしい寄せ植えが完成しました。完成後は、お茶をいただきながら、講師の先生からお花の手入れ方法や、アドバイスを伺い、とてもためになりました。

参加した皆さんは、「とても楽しく、毎年つくりたい。」「お花のことが分かり勉強になりました。」「素敵な寄せ植えができて感激です。」と感想を述べていました。

4泊5日修学旅行／実りある体験



今回の修学旅行先は沖縄、大阪、京都であり、この行程は過密なスケジュールを強いられることとなった。分刻みの行動で5分たりとも遅れてはならない時も多々あったが支障なく全行程を終えることができた。事前指導のときから不安を抱いて旅行に臨んだが、生徒一人一人が集団行動についてきちんと認識しているようだった。先生方の指導が根底にあることは言うまでもないが、「やる時はやる。」を見事に示してくれた。

沖縄では南国情緒溢れる異文化の中に浸りつつ、ひめゆりの塔では同年齢の女子学徒達の悲惨な死に感慨深く向かい合っていた様子が印象的であった。平和についてあらためて考えさせられたのではないだろうか。大阪では大都会の高層ビル群の中をバスで走り抜け、USJの



ハイレベルな近代文化を目の当たりにし、驚きの中に生活感の違いを実感したことだろう。京都においては、日本の歴史を肌で感じたことと思う。高度な技術で建立された数多くの神社仏閣など京都ならではの情緒を醸し出していた。改めて日本の良さを感じ取ったに違いない。

11月14日から4泊5日の旅行であったが、振り返って、この期間中に会った人々の様々な仕事に注目し、彼等の持っている価値観や人生観を考えてみるのもいいと思う。

来年待ち受けている進路選択や今後の人生において、今回の体験が実りあるものになってくれればと願う。



今年もイルミネーション

イルミネーションも今回で4年目を迎えることになった。2011年3月11日に忘れることができない、東日本大震災で新たに強い『絆』が生まれた。

各地で『復興』を合い言葉に懸命な支援活動が未だに続けられている。

本学院も、少しでも地域の方々に『癒し』を感じてもらいたいとの思いで、次

年度より些少のバージョンアップを図り、『復興と希望』を託してイルミネーションを点灯することになった。今年も地域の方々の期待に添えるように12月1日15時55分より10分間に渡り、生徒会、各部活動生ら、大勢の生徒が見守る中、点灯式が厳かに行われた。

はじめに生徒会長の挨拶があり、その

後恒例の特別ゲスト(イサバのかっちゃん)がアカペラで熱唱した。そしていよいよカウントダウンに突入、今年度のイルミネーションが薄暗い前庭に灯った。吹奏楽部によるハンドベルの生演奏が始まり静かな状態で幕が閉じた。



明治神宮大会優勝 選抜甲子園へ!



第64回秋季東北地区野球大会で3年ぶり3回目の優勝をすることができ、明治神宮外苑創建85年記念、第42回明治神宮野球大会に東北地区代表として2回目の出場をしました。この明治神宮大会は各地区の優勝校が集まり秋の日本一を決める大会であると同時に来春の選抜甲子園の前哨戦として各チームの戦力を見分ける重要な大会です。特に冬の訪れが早く、実戦ができなくなる東北地区のチー

ムにとってはこの時期にレベルの高いチームと真剣勝負ができるのは大きな財産となるので一戦でも多く戦えればと思い、初戦の神村学園のデータを収集ししっかりと対策を練って試合に挑みました。試合は延長戦にもつれこみましたが4番北條の大会史上初の逆転サヨナラ満塁ホームランで勝つことができチームに勢いがつきました。準決勝の鳥取城北戦も投打が噛み合いコールド勝ちし、決勝

戦に駒を進めることができました。決勝の相手はイチロー選手を輩出した名門の愛工大名電で非常に苦しい展開でしたがチーム一丸粘り強く戦い逆転で優勝することができました。大会を通じて選手達は信じられない力を発揮し大変成長してくれました。夏の甲子園の悔しさを見事に晴らしてくれたと思います。そして未だ震災の傷跡が残る東北に明るい話題をもてることができうれしく思っています。これからは全国から目標にされるチームになりましたが謙虚に真面目に鍛錬を積み選抜甲子園で頂点に立てるよう頑張ります。

硬式野球部 仲井 宗基



ものづくりクラブ

ーロボコンへの道ー

毎年春になると、今年度のロボコンの競技内容が発表され、工業系の高校では、勝利を目指して色々な工夫を出し合い、ロボットを大会までに作り上げます。

今まで、本校では「ものづくりクラブ」の活動の一つとしてロボットを作ってきました。我が校では、勝利に固執するのではなく、クラブメンバーで楽しく・おもしろく・高度な技術を追求せず、寸法なども精度を厳しくせず合言葉は「許容範囲、許容範囲」と、部品のサイズに誤差が生じてOKという、ざっくばらんなメンバーで、特に先生が色々作り上げ活動してきました。

そのなかでも、ロボットは他校ではアルミなどの材料を使っているところを、我が校では話題性、加工のしやすさ、操縦の簡易性の面から、伝統のように木製ベニヤ板を使い、今までずっと作ってきました。今まで、県予選では1位になれませんが、全国大会の出場枠には

なんとか入賞して、福岡・島根・岐阜・神奈川と全国大会に出場してきました。そして今回、初めて県予選で1位となり、鹿児島県の全国大会に出ることになりました。

今年の競技内容は、3分間の制限時間内に4つの台からパイプ、ペットボトル、テニスボール等を、操縦型ロボットで運び、他に自立型ロボット（スイッチを入れたら自動的に動くロボット）で2cm角の棒に進み、そしてその棒を登っていくという内容で、11月5日に八戸工業高校で開催された県予選では10校17台のロボットがエントリーし、多くのロボットが失格や0点などが続出する中、我が校のロボット“若様1号”は、ドライバー若松和繁君と、ナビゲータの佐藤圭君のコンビで見事260点をあげ1位となりました。（2位八工大一200点 3位青工160点 4位むつ工120点）

その結果、全国大会の出場権を得ました。



さすがに1位となると新聞の取材も来てくれて、3紙にも記事を書かせていただきました。

鹿児島県の全国大会に1ヶ月程あるので、改良を重ねたり、運送用の箱を作り、万を期して競技に参加しましたが、公式練習とは異なり、本番では、ロボットがうまく作動せず予選を通過できませんでした。

ですが、他校のロボットのすばらしい構造・工夫・アイデアを見させてもらいました。特に感じたことは技術的に電子の技術がないと今後上位を目指せないということです。最近では、赤外線センサー等で自動的に次々と作業を行い、ドライバーの技術をあまり必要としないタイプのロボットが多くなっていくような気がします。会場では「センサーの感度が狂うので、カメラのフラッシュは禁止です。」のアナウンスが何回もありました。こういうときに、ロボットを操縦する人の技術が要求されるのだと思いました。

これからも「ものづくりクラブ」では楽しく・おもしろく・ロボットはもちろん“ハイブリットソーラーボート”（秘十和田湖横断計画）等色々作っていきながら、活動していきたいと思っています。



「郷土の味を楽しむ会」に参加して

野辺地町中央公民会で11月11日、京風料理を、現代風にアレンジした「郷土の味を楽しむ会」に参加した。そこで私たちは、数曲の演奏をお客様の前で披露した。

この活動は、毎年行われていて、また郷土料理を食べることができる特典がありワクワクしながら臨んだ。人前で演奏

することは、だいぶ慣れてきているのだが、やはり緊張はする。そのほどよいドキドキの感じ方のおかげでちゃんと演じることができて大変良かった。



東北高校空手道選抜大会を終えて

この大会は、全国選抜大会の東北ブロック予選を兼ねたものである。県予選では、2年ぶりに女子団体組手で優勝し、女子団体形においても第2位と好成績を収めることができた。県大会では、選手四人ながらも僅差で勝利したが、東北選抜大会で戦うには厳しい状況であった。「勝負はやってみなければわからない」と選手に言い聞かせ、この大会に臨んだ。団体組手1回戦の相手は、昨年度優勝校の能代商業高校。1年生の奮闘により2対1で副将戦を迎え、チャンスを掴んだ

と思ったが、焦りとプレッシャーに勝てず、3対2で初戦敗退となった。悔しい思いのまま臨んだ団体形では、決勝進出は果たせなかったが、見事3位へ入賞し、全国選抜大会出場権を得ることができた。

閉会式終了後、満面の笑顔で駆け寄る選手の姿に、なぜか救われたような気持ちになった。悔しい試合を経験していく中で、少しずつ成長していく選手達の姿に、「勝つことの大切さ、負けることの意味」を痛感した大会となった。

全国高校空手道選抜大会は、3月26日



より岡山県にて開催される。強豪校と肩を並べられることに喜びを感じつつ、「究極のプラス思考」という部員達の合言葉を胸に、これからも高い志を持ち、次の目標に向けて精進し続けていきたい。

冬休み直前の12月21日(水)、文化部の活動を中心とした部活動発表会が開催された。発表会は前後半のⅡ部で構成、第Ⅰ部は、高総文発表スピーチで優良賞受賞の坂本詩織さん（キャンパスこうせい vol.23掲載）、全国高等学校ロボットコンテスト出場のもの作りクラブの競技実演、県秋季新人大会優勝の空手道部による形と組み手の演舞、のへじ祇園囃子保存部の演奏、第Ⅱ部ではバンド愛好会の2組による演奏が披露された。

ものづくりクラブの競技実演は、全国大会直後のため大会会場から発送した出場したロボットが間に合わず、昨年県大

部活動発表会、卒業演奏会開催

～来年度のさらなる飛躍に期待～

会に出場したロボットを操作し披露。その後、生徒の中から希望者が出て、操作を体験した。

Ⅱ部のバンド愛好会は今年、本校文化祭を始め、八戸大学の学園祭にも声をかけていただき演奏しており、3年生バンドが高校生活最後となる演奏を披露し、手拍子が出るなど大いに盛り上がった。

また、1月28日(金)には、毎年この時期に開催されているピアノの授業の集大

成、人間福祉系列3年生による卒業演奏会が行われた。31名がそれぞれ選んだ曲を演奏、発表会初の連弾の演奏もあった。会場となったピアノレッスン室は、3年生が授業で学習した技術を活かした装飾がされ、同系列の1、2年生達も緊張感を持って静かに聴き入っていた。特に2年生の男子の中には、「来年は自分の番だ」と意識からか、各演奏者に熱い視線を送りながら真剣に聴き入っていた。

本校の部活動数は決して多い方ではないが、今年度は、運動部・文化部ともとても活躍した年であった。来年度は各活動とも今年の先輩達に続いて、より一層の活躍と飛躍を期待したい。



初の海外遠征に招集される

レスリング部女子1年生 清水目 優生（ゆい） 選手



本校レスリング部の清水目優生選手（十和田東中出身）が、2月中旬にスウェーデンのクリッパン市で行われる国際大会「クリッパンレディーオープン2012」に、1年生ながら日本代表選手として出場することになった。

清水目選手は、8月17日に大阪府堺市で開催された、全国高等学校女子レスリング大会40kg級に出場し初優勝を飾った。次いで12月に東京で開催された全日本レスリング選手権大会に初出場、階級は48kg級で、1回戦はフォール勝ちしたが、

2回戦はフォール負けを喫した。相手は、この階級で優勝し、ロンドン五輪出場を決めた小原日登美選手。「強い人と対戦したい」という思いで出場した大会であったが、実力の差を体感させられた大会となったようだ。また、大会後、東京都北区にあるJOC味の素ナショナルトレーニングセンターで行われた高校選手対象の合宿に参加。合宿終了後、本人に感想を尋ねたところ「それほどきつくはなかった」と明るく答えていた。

これらの大会成績や合宿が評価され今

回の日本代表に選出された。これまで参加してきた大会・合宿で経験したことを、今回の国際大会でおおいに発揮してきてもらいたい。そして、これからの競技スタイルにプラスになる多くのことを目で見えて体で感じてきてほしい。



八戸短期大学附属幼稚園

星の子講座……

■気軽に参加して、
■楽しく
■色々な事が学べる



「星の子講座」は、PTA「ひかりの会」が活動の一環として行っている、父母研修です。保護者の皆様が企画した、園芸、スポーツ、健康、食育、伝統文化、教養等に関する、バラエティに富んだ講座が開催され、「気軽に参加して、楽しく色々な事が学べる」と、好評を博しています。

今年度の講座の中からいくつか挙げてみると、グリーンカーテン作りやジャガイモの種芋植え、花壇の整備等を行った

園芸サークルに始まり、手芸サークルのかぎ針編みシュシュやクリスマスリース作り、快い汗を流したルーシーダットン、ジャザサイズ、茶道講座、料理教室などがありました。

それら沢山の「星の子講座」の中から、12月13日、八戸大学・八戸短期大学・総合実習館で、八戸短期大学ライフデザイン学科佐藤千恵子先生を講師にお迎えして行われた料理教室（シーフードピラフ・サラダ・ケーキ）での、先生のご指

導の素晴らしさと料理の美味しさを、写真と参加者の感想でご紹介したいと思います。

「特にケーキが印象的でした。同じ材料と分量で作っているのに、班によって、ふんわりだったり、しっとりだったり違いが出たのがおどろきでした。家で練習して、自分好みのケーキのコツを覚えたいです。」

「料理以外に成長期のお話も聞けて、勉強になりました。特に、カップラーメンと牛乳の話は驚きました。普段は全く気にしていなかったので、今後は気を付けたいと思います。」

「料理教室後、すぐに作ってみよう！と実践したのは初めてだったかも知れません。お料理中の先生のお話もとても楽しく、食育に関して改めてじっくりお話を聞きたいと思いました。また、参加したお母さん方のケーキのデコレーションのセンスの良さ！勉強になりました。」



聖アンナ幼稚園



『クリスマスを祝う会』

～厳かに…聖劇とキャンドルサービス～



聖アンナ幼稚園では、待降節が始まる頃に「プレクリスマス」をおこないます。待降節の間(クリスマスまでの一か月間)に良い行いをして、きれいな心でイエスさまの御降誕を迎えることができますようにと祈ります。そして、12月になってクリスマスが近づいたころ「クリスマス会」がおこなわれます。

今年度は園児全員が参加してイエスさまの御降誕の劇をしました。劇のナレーション、マリアさま、ヨゼフさま、天使たち、三人の博士、宿屋の人たちは年長さん。ひつじ飼いとひつじたちは年中さん。星たちは年少さんが演じました。それぞれの年齢にふさわしい歌と演技で子どもたちの成長を感じることができました。

聖劇につづいて、年長さんがりんごを燭台にしたロウソクを手に持ち、キャン

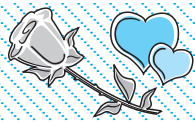


ドルサービスをおこないました。皆がそろって祝えることに感謝しつつ、苦しみや困難にある方々のために穏やかな日々が訪れることを祈りました。

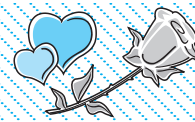
最後に、おかあさまがたの指揮、楽器演奏に合わせて会場全員で賛美歌を合唱し、クリスマスと共に祝うことの喜びを感じることができました。



第二しなのめ幼稚園



豊かな心をそだてる



幼稚園では「みみ」という名前のうさぎを飼っています。生まれたばかりのうさぎに愛称を子どもたちから募り、ラビット・ビット・びよんちゃんなどの中で一番多かった名前をつけました。毎日玄関で子どもたちを迎えています。子どもたちは、おうちからキャベツや人参を持ってきて食べさせてくれたり、園庭のクローバーを摘んでは「おいしいでしょ。いっぱい食べて大きくなってね」と語りかけたり。またある時は、お母さんに会いたいさみしい気持ちを受け止めてくれるやさしい「みみ」等可愛がっています。子どもたちの優しい気持ちや、素直な心

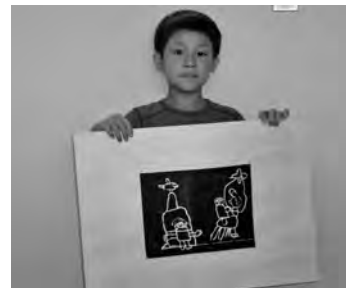
を見つめてくれているようです。

幼稚園の教育は環境を通しておこなうことです。幼児の豊かな心を育てることは大切な教育の一つです。宮城県生まれの幼児造形の第一人者である林建造氏は「芸術は人と人の心のふれあい」と話しています。自分の気持ちが他の人とも通じ合える喜び、それぞれの表現の違いも「らしさ」になり「良さ」として豊かに育つことが私たちの願いでもあります。当園では、一年を通して子どもたちの豊かな感性でさまざまな体験を表現した絵画や造形作品を園内に展示し、保護者の皆さんに鑑賞していただいています。ま

た子どもたちの豊かな育ちを見て欲しいとの思いで中央の児童画展への出品も続けています。その中の作品が第42回世界児童画展において全国造形教育連盟賞をいただけることになりました。八戸公園子どものくににあるメリーゴーランドで友だちと一緒に遊んだ楽しさや喜びを表現した年長児の作品です。

- ・何かをすきになること
- ・その気持ちを伝えたいこと
- ・相手の気持ちを汲み取れること

私たちは幼稚園のさまざまな環境を通して一人ひとりの子どもたちの心をのびのびと豊かに育てたいと思っています。



びわの幼稚園



第34回 クリスマスお遊戯会



びわの幼稚園では、12月4日(旧野辺地町中央公民館ホールを会場に第34回目のクリスマスお遊戯会を開催しました。

当日はホールに入りきれないほどのご家族の方々が見学にこられ、一生懸命に披露するこどもたちの姿に見入っていました。

プログラムは、年中さん女子のお遊戯「ジャワの踊り子さん」から始まり、年長さんが「キッズ・ソーラン」・「ヘビー

ローテーション」、満3歳児が「パンダちゃん体操」、年少さんが「ぶるるん！しずくちゃん」そして、年中さん男子の「仮面太鼓」とそれぞれ練習してきた6つのお遊戯を楽しく踊りました。特に、年長さん女子の「ヘビーローテーション」は、AKB48の持ち歌でもあるようで、お母さん方に特に喜んでいただきました。

劇では年中さんが「花さかじいさん」、年長さんは「こびとのくつやさん」をそれぞれ披露し、一瞬にして枯れ木に花を咲かせる場面では会場から多くの拍手をいただきました。

お遊戯、劇が終わると園児たちは得意の合奏、歌を元気良く披露し、ハンドベル演奏の「アメージング・グレイス」の場面では会場内が静まり返って園児たちの奏でる音に聞き入っていました。

フィナーレでは「あわてんぼうのサンタクロース」、「赤鼻のトナカイ」の



歌に合わせて登場してきた保護者が扮したサンタクロースさんからちよびり早いクリスマスケーキをいただき終了しました。

お遊戯会が終わり感想をいただいたところ、「休憩時間を2回に分けたほうが良いのでは」、「パイプイス席を増やしたほうが良いのでは」などの建設的なご意見と、「すばらしい演奏で来年もまた聞きたいです。」「今年もとても立派なお遊戯会でした。ありがとうございました。」などとお褒めの言葉をいただき、保護者のご協力を得て3大行事の一つを終えました。



光星高 イルミネーション 点灯式



ロボコン全国大会 野西高